

神津島

水の恩恵を受けた
神話が息づく島



神津島はどこにあるの？

位置：都心から南に172km

面積：18.24km²

アクセス

航路：竹芝－神津島（東海汽船）高速船で

約3時間5分／大型客船で約9時間55分

空路：調布飛行場－神津島空港（新中央航空）飛行機で約45分

KOUZUSHIMA

OGASAWARA Islands.



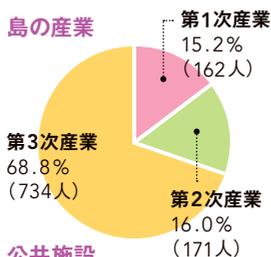
information

島の人々

人口：1,891人

世帯数：791世帯

島の産業



公共施設

役場：1

医療機関：1

小学校：1

中学校：1

高校：1

神津島村の特産物

水産生鮮品：キンメダイ、アカイカ、タカ

ベ、イセエビ、クロムツ、メダイ

水産加工品：くさや、テングサ、トサカノリ、赤イカ入塩辛、岩のり

農林産生鮮品：レザーファン、アシタバ、ミニトマト、パッションフルーツ

農林産加工品：焼酎、パッションフルーツジャム、パッション煎餅、島スープ

工芸品：黒曜石細工、貝アクセサリー

神津島村のシンボル

花：コウゾエビネ

木：サカキ

鳥：インヒヨドリ

魚：カジキ（カジキマグロ）



伊豆諸島・小笠原諸島の中で神津島のキンメダイは漁獲量No.1。



神が集いし島

神津島は、事代主命ことしろのみことという神様が伊豆諸島の島々を創るために、神々を集めて相談をする拠点とした言い伝えがあります。「神が集いし島」すなわち「神集島」と書いたのが転じて現在の「神津島」になったといわれています。また、命の源である水を、島々でどのように分配したらよいかという会議も神津島で行われたと伝えられています。

豊富な水

実際、神津島は水が豊かで、村の水道水は地下水を利用しているほど。豊富な水を生み出している理由のひとつにあげられるのが、神々の話し合いの舞台とされている天上山てんじょうさんです。冬に強く吹く西寄りの風の影響で、天上山の8合目以上は岩や石が風化して白砂の砂漠が広がって

います。そこに雨水が浸み込み、地下水が山の周辺のいたるところから湧き出しています。

「東京の名湧水57選」にも選定されている「多幸湧水たこうぶいすい」はそのひとつ。集落のある港とは反対側に面した多幸湾周辺に湧きでており、豊富な水を島民に与えることから、幸多き場所ということが多幸と名が付いたといわれています。

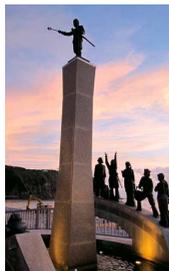
島の観光

神津島には、透明度の高い水浴場があり、多くの観光客が訪れ賑わいます。また、海だけでなく、神津百観音をめぐるハイキングや天上山トレッキングなど、年間を通して観光を楽しめるのも神津島の特徴です。



「東京の名湧水57選」に選ばれている多幸湧水。

神話と信仰の島



水の分配会議が行われた伝説を伝える水配り像。

神津島には、古くから多くの神話が残されていますが、特に有名なのは「伊豆諸島の水配り伝説」です。島の中央に位置する天上山に伊豆諸島の神々が集まり、水の分配会議が行われたというものです。水の分配は先着順に行うこととなり、一番早く着いた御蔵島の神様は、多くの水をもらい受けました。続いて新島、八丈島、三宅島、大島の順に配られ、寝坊して最後にやってきた利島の神様のときには、水はほとんど残っていませんでした。利島の神様は怒り、残った水に飛び込んで暴れると、水が四方八方に飛び散り、神津島ではいたるところで水が湧き出るようになったといわれています。神話に由来する古い歴史と伝統をもつ神津島は、祖先を敬う厚い信仰が息吹いており、神社や寺、祭や伝統行事を守り続ける風習が残されています。



水配り伝説の舞台とされている天上山。

不入が沢

伊豆諸島の神々が集まり、水配りの会議が行われた神話の舞台と伝えられ、今もなお足を踏み入れてはいけぬ神聖な場所とされています。



不動池

天上山にあるハート形の池で、池の中央には龍神を祀る社があります。古くは島の漁師たちの信仰の対象となっていました。



五色浜海岸

島の北側にある長浜海岸は、別名「五色浜」海岸と呼ばれています。浜に色とりどりの玉石があることで知られていますが、事代主命があちこちに后を作ることになった阿波命が、后たちの宝石を奪い集め、これが玉石になったという言い伝えがあります。今でも、海岸の石を持ち出すと神罰が下るとも伝えられています。



神津百観音

江戸時代に流行した札所巡りが神津島にも伝えられ、島内には坂東三十三観音霊場を模した庵屋堂や秩父堂、観音堂など100基の石塔があります。



おたあジュリアとキリスト教



徳川家康の侍女でキリシタンだったおたあジュリアは、幕府が禁教令を出した後も信仰を続けたため、神津島に流刑になりました。ジュリアは島で人々の生活を献身的に助け、その様子は今に語り継がれており、ジュリアをしのんだ祭りも開催されています。写真は、ヨハネ・パウロ2世に贈られたジュリアの人形と同型のもので（神津島村郷土資料館所蔵）。

猿田彦大神

神津島では、病魔や病鬼を払う神といわれている猿田彦大神が26カ所で祀られ、旧暦1月25日には、猿田彦大神を礼拝する島の神事「二十五日様」が行われています。





神津島の漁業

昔から漁業が盛んな島で、キンメダイやタカベ、アカイカ、イセエビなどの高級な魚類が豊富に水揚げされることが特徴です。特に、漁獲高の7割以上を占めるキンメダイは、ここ数年で神津島ブランドとして地位を確立し、高値で全国に流通されています。U・イターンを含め、20～30代の若手漁師が多いのも特徴で、研究会を立ち上げ、資源管理等にも取り組んでいます。



漁協女性部が運営する食堂「よっちゃーれセンター」の人気メニュー。丸ごと一尾を使ったキンメダイ煮魚定食。

島の歴史と貴重な文化財を継承

神津島村郷土資料館には、考古学的にも珍しい出土品や、島の歴史を物語る文献・古文書、石器時代の黒曜石の民具、江戸時代の千石船のものと思われる遺物、すずり、すりばち、300kgもある錨など、古代から現代までの島の自然、民族、歴史に関する多くの展示品があります。



伊予諸島近海に生息する小さな海鳥カンムリウミスズメの剥製。(国の天然記念物並びに絶滅危惧種指定)



島の民俗、民具、自然をジオラマやビデオとともに展示。



古代から現代までの神津島の歴史を知ることができる。



国の重要無形民俗文化財 「神事かつお釣り」



神事が行われる物忌奈命神社(ものいみなのみことじんじゃ)は前浜の漁港の上に鎮座している。

江戸後期11代將軍徳川家斉公の時代に始まった、例祭(8月2日)に伴う神振行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。カツオ節が特産物であった当時、漁を終えて無事島に帰ることができたことを神に感謝し奉納されてきた行事です。古式にのっとったカツオ釣りが再現され、若い漁師が神社境内を駆け回り、島民を“カツオ”に見立てて釣り上げる楽しい行事です。

黒曜石 ミステリー



黒曜石を材料とした矢じり。狩猟に使われていた。

神津島の黒曜石は、質が高く埋蔵量は日本一といわれています。マグマが急速に冷えて出来る天然のガラスで、割れた縁が薄く鋭利なため、縄文時代や弥生時代には石器の材料として欠かせませんでした。後期旧石器時代(約3.5万年から1.5万年前)の神奈川県大和市の月見野遺跡や能登半島、紀伊半島からも神津島の黒曜石が発見されています。当時の遺跡からは丸木船しか出土していないため、どのようにして本州へ黒曜石を運搬したのか、一つの謎となっています。

島の人気スポット・赤崎遊歩道

島の北部に位置する赤崎海岸に造られた全長約500mの木造遊歩道。遊歩道の展望台からは伊豆諸島北部の島々や、富士山、南アルプスなどを望むことができます。海の波も穏やかで透明度が高いため、たくさんの種類の魚が見られ、スノーケリングを楽しむのに最適なスポットです。また、遊歩道に設けられた飛び込み台は夏になると島の子どもたちや観光客で大賑わいです。

夏には大賑わいの飛び込み台。



天上山のアルプス



山頂に広がる広大な白砂の砂漠「表砂漠」と「裏砂漠」。風の音以外何も聞こえないところにある美しい景色。

島の中央にそびえる天上山は標高572mの山で、昔から島の神聖な場所とされています。山頂周辺になると高木が少なくなり、背の低いまま成長した植物を多く見ることができます。天上山は「新東京百景」にも選定されており、360度の眺望を楽しめる天空の丘や、砂が堆積してできた表砂漠や裏砂漠などが望めるビュースポットが点在しています。

水着のまま温泉へ 神津島温泉保養センター

島で唯一の日帰り温泉施設で、水着で入れる大小の露天風呂と展望露天風呂の他に、男女別の内風呂があります。自然の岩場を利用した大露天風呂は約275㎡あり、日本でも有数の広さを誇ります。21時まで営業しているので、夕食後に夜空に輝く星を見ながらゆったりとくつろぐこともできます。また、小露天風呂からは沢尻湾を見渡すことができます。



展望露天風呂からは、晴れた日には、太平洋に沈む夕日を眺めることができます。

神津島の植物



ハマシャジン
9〜10月／葉が厚く
光沢があるのが特徴。

コウヅエビネ
4〜5月／
神津島独特の蘭。



オオシマツツジ
4〜5月／天上山の随所に
自生している。

天上山は「花の百名山」にも選定されており、春のオオシマツツジやハマシャジン、秋のリンドウ、ウメバチソウなど四季折々に咲く美しい花々を見ることができます。また、神津島には多くの野生の蘭が自生しており、コウヅエビネは神津島独特の蘭です。毎年4月にはコウヅエビネを中心に約100鉢のエビネランを展示する「神津島えびね展」が開催されています。



長年の波の浸食によりできた岩。



© (公財) 東京観光財団

崖を下って15分ほどの場所にある秘境スポット。海水の池で大きな波がきたときに海水が流れ込む。海水浴場ではないので遊泳はできない。



島内アクセス

バス、タクシー、レンタカー、
レンタバイク、レンタサイクルあり

島の窓口



神津島観光協会

〒100-0601
東京都神津島村37-2



神津島村産業観光課

〒100-0601
東京都神津島村904

島めぐりコース

- 【1日目】
- 午前 港に到着 → バス等で宿へ → 集落を散策 → **よっちゃーれセンター**でキンメダイ定食のランチ
- 午後 バスに乗って**赤崎遊歩道**へ → **神津島温泉保養センター**の温泉で水着のまま夕日を眺める → 宿に戻り地魚料理を堪能
- 【2日目】
- 午前 商店でお弁当購入 → **天上山**のトレッキング → **不入が沢**を通して、最高地点から眼下に広がる海を眺める(お弁当) → **不動池**、**表砂漠**などを楽しみながら下山
- 午後 白砂が続く**前浜海岸**で海を眺める → バスで**多幸湾**に移動して湧水を味わう → 出港